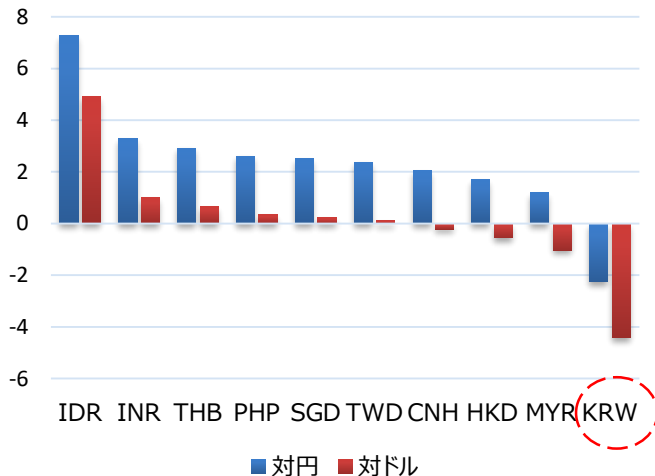
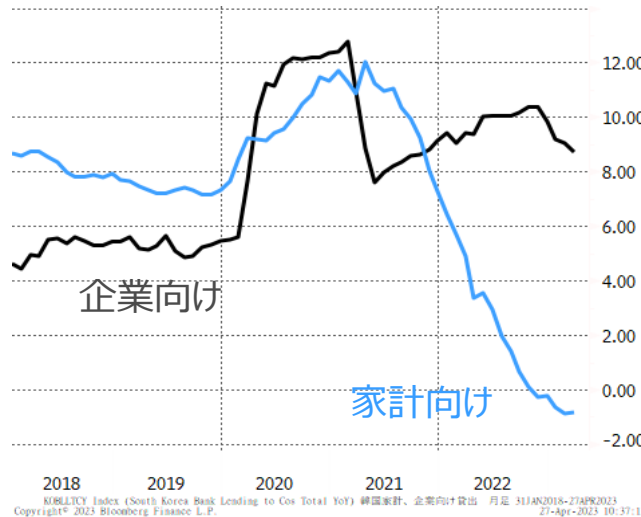


- 今年に入ってから広範囲でドル売りが進み、左下図の通りアジア通貨は総じて安定的な動きを見せているが、韓国ウォンは弱さが目立っておりアジア通貨で最悪のパフォーマンスを記録している。**ウォン安要因について以下で考察したい。**
- ①**韓国中銀の利下げ期待**：足元でインフレ率の鈍化や下落が止まらない不動産価格から、市場の利下げ期待が高まっている。中下図のとおり韓国の銀行貸出は家計向けと企業向けともに鈍化しているほか、ノンバンクの不動産への貸付けに関する懸念も燃っており、銀行不安による信用収縮が懸念される米国と同種の問題を抱えている可能性がある。直近の韓国中銀会合ではインフレ高止まりを理由に一段の利上げの可能性を示唆した委員が複数いるほか、李総裁も利下げ期待に対して否定的な見方を示すなどカ派的な姿勢も目立つものの、市場の利下げ期待が高まる要素は十分にあるといえる。
- ②**貿易赤字の長期化懸念**：韓国の主力の輸出品目の半導体であるが、特需の一服で今年の半導体市場は前年対比マイナスが見込まれている。韓国の最大貿易相手国である中国の経済回復は期待されるものの、米国による半導体関連の対中輸出規制の影響や中国の半導体国産化の流れを受け、半導体の対中輸出は伸び悩み、対中貿易収支は右下図のとおり赤字基調が続いている。一方、対米貿易収支は安定的な黒字基調を維持しているものの、米国経済は利上げが続くなかで景気鈍化が見込まれ、中国向け貿易赤字をカバーするには至らないだろう。
- ③**北朝鮮情勢を巡る地政学リスク**：北朝鮮のICBMの発射や韓米の大規模軍事演習などで朝鮮半島の緊張が続いている。米国の韓国への原子力潜水艦派遣報道も地政学のネガティブ材料として意識されやすい。
- 以上のようなネガティブ材料が改善しない限り、ウォン相場が軟調な時間帯がまだ続く可能性が高いとみている。一方で他のアジア通貨に関しては個別国による材料はあるものの比較的底堅いとみており、ウォン安の動きがアジア通貨全体の流れに波及する可能性は低いだろう。

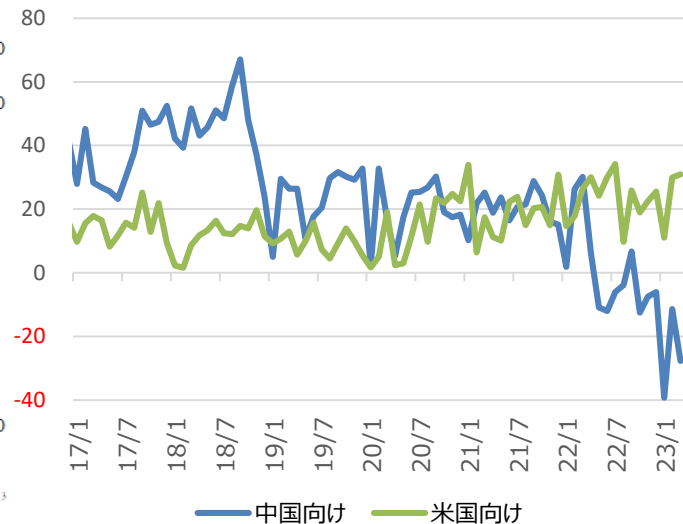
年初来騰落率(%) 4/25時点



家計・企業向け貸出残高 前年比(%)



主要相手国向け貿易収支(億ドル)



出所:韓国銀行、韓国産業通商資源部、Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。